

正式名称「高等専門学校」の問題点と提言

○高知高専 山崎 利文

1. はじめに

高専制度は、昨年2012年に50周年を迎えた。この間高専卒業生は、中堅技術者として日本の製造業の中核として活躍し、勤勉でレベルの高い仕事ぶりは、広く世の中に知られていることである。その評価が知れ、その後多くの大学への編入学の道も開かれ、引き続き大学院へも進学する卒業生が増え、高等教育機関として高い評価を受けていることを一高専教員として実感している。戦後、高度経済成長の担い手として優秀な実践的技術者を養成するために「専科大学構想」が打ち出されたが、短期大学の恒久化問題もあって修正され、昭和37年中学卒業生を受け入れる複線化された5年間一貫教育の高等教育機関「高等専門学校」として発足した。またその後、昭和62年ごろ、高等教育機関としてふさわしい「高等専門学校」改名の動きがあり、「専科大学」と称する方向付けがされていたが、当時、存続が危ぶまれていた短期大学などからの反対があり、改名はされず現在に至っている。^{1) 2) 3)}

ところで、この「高専」の評価を下げ、混乱を招く原因になっているのが、正式名称「高等専門学校」である。著者は、高知高専学生として5年間、さらにその後同校教員として高専教育に25年間携わり、実感してきたこの名称問題を改めて世に問い、高専を正しく評価していただけるための改名を提言した。

2. 正式名称の混乱

(1) 高等学校と間違われる。

高知県内において、「工業」といえば「高知工業高校」のことであり、「高知工業」といえば「高知工業高校」のことである。さらに「高知工業高等」まで聞いても「高知工業高校」を指す。正式に「高知工業高等専門学校」と聞いても「高知工業高校」と間違ふこ

とが頻繁に起こる。似たような名称と長い名称が混乱の一因であるが、100年の伝統をもつ「高知工業高等学校」に軍配が上がる。

高知高専が高知高専として間違われぬためには「高知高専」というしかない。

(2) 専修学校・各種学校と間違われる

(1)と同じで名称の後半の「専門学校」と聞くと、大都市圏に多く存在するいわゆる「専修学校」や「各種学校」と間違われやすい。

(3) 名称による低い評価

高専が、高等教育機関（大学等）としての認識が低いのは、正式名称からくるイメージがあり、以前著者が都内私立大学事務職員から、「専門学校に教授という職階があるのか。」と聞かれ、あまりの認識の低さに言葉を失ったことがある。

(4) 高専関係者でも言い間違ふ

10年以上前になるが入学式において入学生を前に、新任学校長が、「高専」は「正式名称を」と前置きしながら、「高等工業専門学校」と発したことがある。慣れないことで、この間違いは無理も無い。ところが、この学校長は、次年度も同じ言葉を発した。また、総合文化祭の表彰状読み上げの際、「時間の都合上『高専』と省略させていただく」と前置きしながら、最後の受賞者の学校名を「〇〇高等学校」と発せられたのは記憶にあたらしい。

3. 省略名が正式になった例

一流企業には、省略名が世の中に認知され、省略名が正式名称になった例がある。いくつか例を挙げると、

- ① 東京芝浦電気株式会社 > (株)東芝
- ② 日本水道コンサルタント株式会社

> 株式会社 日水コン

③ 東洋レーヨン株式会社 > 東レ株式会社
ブランドとしての短縮名称は、さらに企業のイメージが上がり、成長していったものも少なくない。

4. 「高専」は「学校」なのか

学校教育法「第1条に規定される学校」による「学校」とは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、高等専門学校、大学（短大・大学院）であるが、このうち幼稚園と大学には、「学校」という名称が付かない。「学校」と付かなくても「高専」も固有名詞「高専」「kosen」という名の「学校」「College」であってよい。一般名詞が固有名詞になった世界的に有名なものは、「新幹線；Shinkansen」である。新幹線は、新しい幹線道の意味で付けられた名称が、現在の「新幹線」をさす固有名詞になった。読みやすい、イメージしやすい名称が一般大衆に受け入れられ、それが実評価の対象になるのである。

5. まとめ

我々高専教育に携わるものとして、正しく高専を評価してもらうためには、「高等専門学校」改め「高専」とすべきである。また、長い正式名称は、間違われるだけでなく、書類作成・表記・表現においても非効率的でもある。本件は、学校教育法の改正を伴うので、高専機構本部がとりまとめ文部科学省を通じて国会に法律改正の手続きをとる必要がある。

高等専門学校を「専科大学」とするのではなく「高専」への改名であれば、どの教育機関からも反対される理由は見当たらない。高専制度発足50周年を過ぎ、さらには100周年に向け、その存在意義を問う古くて新しい名称問題を議論するのは、今である。

参考文献

1) 山下 祐志、宇部高専 専科大学法案の再評価、高等専門学校の教育と研究：日本高専学会誌 1(1), 25-32, 1996-01-31

2) 佐藤史人、和歌山大学、職業教育を中心とした学校教育制度の変遷について、文部科学省キャリア教育・職業教育部会 2009年6月

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/c_hukyo10/shiryo/attach/1282701.htm

3) 大学審議会 大学教育部会(第114回) 議事要旨
平成11年9月17日

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_daigaku_index/bunkabukai/gijiroku/1315661.htm

平成25年度(2013) 高専学会発表論文抜粋